

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890900109		
法人名	社会福祉法人 兼誠福祉会		
事業所名	グループホーム メヌエット		
所在地	兵庫県西宮市浜脇町4-33		
自己評価作成日	令和1年7月26日	評価結果市町村受理日	令和1年10月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://2niti.com">2niti</a>
----------	---------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ兵庫福祉調査センター		
所在地	尼崎市南武庫之荘2丁目27-19		
訪問調査日	令和1年9月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームで生活をしてくださる生活者様(利用者)の尊厳と自由を尊重し個人個人のニーズに沿った質の高い援助、支援を提供致します。  
生活者様の皆様がゆとりのある空間の中で「我が家」と感じて頂き、のんびりと暮らして頂けるよう環境を整えていきます。  
また、アセスメントに基づき何が出来るのかを見極めた自立支援を提供致します。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームメヌエット」は、西宮市南部の酒蔵通りに面し、特養・デイサービスに併設された複合施設である。近くに1月10日の年男競争で有名な西宮神社や開校百年を超える小学校がある静かな文教地域にあり、積極的な利用者家族の取り組みや民生委員を中心とした地域の方々の熱心な協力もあり、開設後11年を経過して、地域と事業所のつながりは強固なものになってきた。現在の管理者は3代目で、利用を希望する待機者が減少傾向にあることに危機感を持ち、他施設にない営業活動を展開するなど、新しい管理者像を目指したいと張り切っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念にもある「ゆとり」ある時間の中で我が家と感じて頂き、楽しく笑顔で暮らして頂けるよう環境作りを行っています。この理念を管理者、働いている職員とともに共有し日々実践している。	理念の柱である、利用者に「我が家と感じてもらおう」を実現するため、管理者以下全職員が理念の共有化に努めている。特に新人教育に力を入れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	生活者様との近隣散歩(買い物含む)時には、地域の『見守りベスト』を着用し地域貢献に努めています。イベント(お茶会)やレクリエーションを通じて地域交流もおこなっています。	地域自治会から提供していただいた「緑色のベスト」を着用して、ゴミだし、買い物、散歩等をしている。これにより、地域の人から声かけられるようになり、帰宅願望が少なくなった例もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談をはじめ、申し込みに来て頂ける方や電話での相談にも対応させて頂いています。法人として年に数回、認知症サポート養成講座も実施しています。地域の方々へも施設見学もしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎年参加下さるメンバーに恵まれていることもあり、色々なアドバイスや地域でのイベントの紹介をしてくださる。その言葉や紹介を活かし生活者18名へのサービスに活用している。	2カ月に1回【奇数月】に、家族代表・民生委員・他施設代表・西宮市職員・事業所の関係者をメンバーとして開催している。日常に起こった問題点はスライドを使用して解決策を検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	集団指導、監査の実地指導などを通し適切な運営をおこなっていけるよう指導を受けています。申請書類(加算等)についても担当者に連絡をとり作成をおこなっている。	運営委員会に西宮市の職員に必ず主席してもらうほか、日常的に連絡を取り、情報提供や相談に乗ってもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	生活者様、その家族様への説明をおこない対応にあたっている。職員に対しても、法人で毎月開催される『リスク委員会』にて身体拘束禁止についても話し、グループのみならず併設している特養に関しても伝えている。	ベッドの柵の取り外しなど市からの指導や要請にこたえる様努力している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員への対応(個々へのアプローチ)は常に伝えここで過ごす(生活者様、職員)方がストレスを感じないように認知症の勉強会と同時進行で虐待については話している。新人研修時にも、虐待防止のテーマについておこなっている。	職員がストレスをためることがないように対応に工夫している。利用者に対する声掛けも(具合はどうですか?)ではなく、(今日は)と声をかけて、気分を和らげている。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修に参加し学ぶ機会を確保している。(毎年4月研修テーマとして) (新人研修にも取り入れている)	人権とは尊重すること。毎年研修があり学ぶ機会を作っている。実践を通じて身に着けている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時または制度改正時に説明をおこない生活者、家族様が理解納得をして頂けるように説明は行っている。日々の暮らしの中でも質問は受け付けています。	契約前には利用者・家族に見学してもらい、契約は家族からの質問や疑問点には丁寧な説明を行いきりかいなとくをえたうえげおこなっている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時(来訪できない家族様へはメールや電話にて)苦情だけではなく要望や疑問も確認し皆様にとって安らげるグループホームにできるよう努めています	面会時はできる限り家族の意見を聞くようにしている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット内の申し送り、ミーティング、人事考課やユニット会議において職員の考えや意見を把握し運営に反映できるように努めている。	職員間の風とうしは良く。情報の共有が出来る。	職員が仕事にやりがいを持って日常業務に取り組むことは、利用者や家族に伝わる。代表者はその裏付けとなる職員の処遇改善に努力されたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の見直し、人事考課の活用、各委員会からの提言などを検討して繁栄できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内での研修をはじめ、日々のミーティングやケース記録から職員が不安や疑問に思っていることを伝えてもらうことにしている為、一人一人にあったトレーニングはおこなわれています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西宮グループホーム連絡会や、入居申し込み時に縁のあった居宅や施設関係者との意見交換や情報共有もおこなっている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段のコミュニケーションから、本人様の状態や要望を確認把握しケアプランを作成。皆さんの目線に合わせその方にあったペースで対応させて頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談により現在のご家族様の要望などを把握しケアプランを作成。本音でお話をして頂けるように、そして聞かせていただけるよう体制を整えている(管理者含めての接遇マナー)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み段階、事前面談において入居されるまでの間を安心して過ごしてもらえるよう状況を確認し、必要と感ずる内容についてアドバイスなどをおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行動指針にある「生活者様と職員が共に生活という意識を持って心のこもったケアを提供します」を実践しています。「できること」を大切に暮らして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様、その家族、そして施設職員の三者が手を取り合いながら居心地の良い暮らしをしてもらえる形を作っていくことを入居契約時(見学時にも)に伝える。入居後も家族様とのコミュニケーションを大切にし信頼関係構築に努めています。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様の協力のもと、手紙や電話、面会そして外出などの支援を行っている。	家族の協力で、お盆や正月に墓参りや外泊する人もいます。学生時代の友人が訪ねてくるケースもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その日、その日の暮らしの中で認知症の進行状況、性格、行動パターンを把握したうえで共に楽しく暮らして頂く関係づくりを支援している。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された病院へのお見舞いをはじめ、退居された方々の様子もその施設に向くことはしています。その家族様へも質問等を受け付けできる範囲でのアドバイスもしています。退居された家族様のボランティアも継続しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1対1でのイベントにも力を注いでいます。特に、誕生日には、御本人様の希望を聞き、できる範囲での対応しています。(外食やドライブ等) (思いや願いを聞き職員全員で共有し活かせるよう努める)	職員は利用者の行きたいところにどうすれば連れて行けるか苦勞している。本人の体力を考えてスマホ等の活用で本人の思いで深い景色を見てもらう取り組みも今後考えていく予定という。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談で把握できなかった事を、常に家族様や来訪された親族、友人の方々へ情報を聞きケアに活かすようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家事全般は勿論の事、日常生活における動作、レクリエーション、コミュニケーション等、あらゆる機会を通じて現状把握に努める。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のケース記録において職員間で話を持ち、原則半年ごとにケアプランを見直しカンファレンスをおこなっています。状態の変化に関わらずその方にあった環境づくりに力を注いでいます。カンファレンス時には、家族と職員も参加しています。	利用者ごとのケアプランを原則半年毎に作成している。変化が生じればその都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常日頃から、職員間でのコミュニケーションのもと様子観察の内容や変化を報告し話し合いをおこなっている。その日の状態に応じて介護を工夫しケアプランの見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスを基本とし、ご本人様と家族様への話し合いにより可能な対応をおこなっている。地域の社会資源を活用公民館での地域行事にも参加交流、ボランティア導入などもしている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物や散歩、外食や見学など、地域の豊富な社会資源を活用して生活の支援をおこなっている。(また、近隣の散歩や買い物には『見守り』ベストを着用している)		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則として、往診対応をしている。通院については御家族様対応をお願いしている。眼科や歯科、皮膚科と整形外科そして心療内科も往診対応している(24時間対応の医師もいる)	入居時にかかりつけ医を利用者・家族と相談して決めている。入居以前からの医師に引き続き受診の場合は家族に付き添いを依頼している。特養も含め24時間対応の医師が2人いる。1ヶ月に1回の往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設特養の看護師が毎日フロア内を朝夕にラウンドして状態観察、健康管理をするとともにオンコール体制も敷いて必要な対応をおこなっている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に関しては、本人様の状態把握の為に、訪問を管理者のみならず職員もおこなっている。(病院の医療連携室と入院部署の看護師から情報交換もしている)病院の相談員にメヌエツの見学にもきて頂き認知症の生活者様の理解を深めている。	最近の入院は「さそう病院」が多いが、早期の退院のために管理者や職員が見舞いを重ねて状況把握や医療連携室のソーシャルワーカーとの関係づくりに努めている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応や看取りのお話はさせて頂くが、現状の家族様へは介護度3になれば特養への申し込みをされる方々が大半になっている。メヌエツが特養と併設していることから家族様も安心してきている。	重度化対応については、これまでは入居時に説明していたが、最近は無関心で、介護度が3以上になると特養への申し込みが方が多くなる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受けていない職員は、法人内研修に参加してもらい急変対応できるように取り組んでいる。また、24時間対応医師には指示を、オンコール看護師にも支持を仰ぎ慌てないことを心がける。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練において避難訓練、消火訓練などを実施している。	特養と合同で3月と6月の年2回消防署立会の下で、消火訓練・避難訓練を行った。訓練は事業所が津波災害避難ビルの指定を受けているので、広く地域住民に呼びかけて実施された。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自由と尊厳を尊重するという行動指針に基づき日々の言葉かけや対応に気を配り、一人の人として節度をもって向き合っている。	人生の先輩・目上の人として日々の声掛け対応に注意している。後ろから声をかけない。いやな言葉は使わないなど。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	目線を合わせ、ご本人様からの言葉を待つ姿勢を大切にしています。職員の考えを押し付けることなく自らがどうしたいのかを決められるように工夫した言葉かけを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事時間も基本は、その方々のペースに合わせています。一日の始まりは『今日は何をされたいのか』を確認し、その方にあわせた支援を大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には、身だしなみに必要な化粧品を購入することもあります。朝夕の更衣、入浴時にも本人様に衣類を選んでもらっている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	庭園の畑で育った野菜を収穫し、皆さんと一緒に調理を(ご飯の一品に)。また、厨房から届くおかずの取り分けや準備後片付けもしてもらっています。	ご飯と汁物は、各ユニットで作り、おかずは特養の調理室から運ばれてくる。利用者は米磨ぎや配膳・後片付けを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は毎日チェックさせて頂いている。また、その方の状態に合わせた摂取方法も検討している。体重測定、採血の結果をもとに主治医に指示なども受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科診療と連携をして口腔ケアを行っています。自歯や義歯の状態、舌苔の有無、口臭を確認して必要となる援助を行っている。また、医師から職員にレクチャーもある(歯磨き、ケアの仕方等)		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを職員間で把握している。(トイレ案内や排泄時の援助)夜間も臥床状態でのパット交換は極力避けています。なるべく本人様にトイレに行ってもらえるよう言葉かけを工夫している。	排せつチェック表で各人の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。トイレ誘導の際の言葉遣いに神経を使い、自立を目指した排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動はもちろんのこと、水分摂取に気を配りなるべく薬に頼らないように取り組んでいる。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴と決めてはいるが、本人様の意向を尊重し入ってもらう。また、夜間時希望の場合には安全面を配慮しておこなっている。	週2~3回午後入浴となっている。(夕方入浴の希望にも対応有)。たまに併設の1階大浴場も利用してもらいリラックスして喜ばれているとか。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯は、生活者様達の その日の状況を確認しながら言葉かけをさせて頂いている。日中も状態に応じて休んで頂く様には言葉かけさせて頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬を把握したうえで、主治医への連絡や相談をしている。往診時は、必ず職員立ち合い情報提供、質問もおこない理解に努めている(家族様同席するケースある)薬変更時には、観察を徹底し主治医に報告(薬事情報はユニットでも保管)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、趣味を活かした楽しみを提供したりまた、職員が楽しいと思うことにも参加して頂いている。嗜好品の購入をはじめ外出する機会を増やしています。その方にあった家事全般もお願いをしています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご本人様の希望や気分転換を兼ねて外出を職員や家族様、ボランティアに協力してもらいながら行っています。地域でおこなわれる行事やイベントにもなるべく参加や見学に行けるように	本人の希望や季節を配慮しながら、少しでも外出機会を増やす努力をしている。例えばごみ捨てでも一回りしてから捨てるとか、今年の夏は暑すぎて屋上庭園での散歩が減ったようだが少し涼しくなると格好の散歩コースとなる。	



自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や飲食を伴う外出時に、本人様が支払いを行うように援助はさせて頂いている。ご家族様から了承頂いた場合には、現金を所持されている方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様の了承を得て、お子様や親類の方々への手紙やハガキ(年賀状)を出しています。(必要に応じては職員が代筆すること)電話をかける場合、職員が一言話してから代わる場合もある。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	BGMやテレビを音量を調整、空調も季節、その日にあった室温に設定するように心がけています。ディスプレイに関しては、職員と生活者様で話をしながら決めています。	ローズ・カトレアの両ユニットの居間は広くゆったりしている。ちぎり絵や行事の写真が貼ってあるが、おもしろいなと思ったのは、阪神タイガースの順位を表したカレンダー。屋上庭園で野菜栽培、皆で収穫、調理して食べる。食欲がわきますね。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	慣れ親しんだ物を居室に置いて頂く様になっています。食事席は、基本みなさんで選んでもらい、エレベーターホールには寛いで頂けるように畳が丘を置いています。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時、馴染みのある物や家具を置いて頂く事を自由にしてもらっています。居室に写真や思い出のある物を置いてもらい居心地の良い空間となるように家族様の協力を得ながら工夫している。	エアコン・洗面台・ベッド・チェストが設置されている。そのうえで利用者・家族が相談して、これまでの使い慣れたものや家族が来訪時に必要と考えるものなどが自由に持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ここでの暮らしに慣れて頂く馴染んでもらえるように配置やセッティングを考え、皆さんが使いやすいように暮らしやすいようにしていく事を心がけています。		

## 基本情報

事業所番号	2890900109
法人名	社会福祉法人 兼誠福祉会
事業所名	グループホームメヌエット
所在地	西宮市浜脇町4-33 電話 0798-38-2218


【情報提供票より】令和 1 年 7 月 26日現在

### (1)組織概要

開設年月日	平成20年6月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 名
職員数	16 名	常勤 11名 非常勤 5名	常勤換算 12名

### (2)建物概要

建物構造	併設型
	鉄筋コンクリート造り 5階建ての5階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	116,000 円	その他の経費(日額)	900 円	
敷金	無し			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無し	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	500 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり円			

### (4)利用者の概要( 8月 10日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	9 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低 76 歳	最高 95 歳		

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	①谷向病院 ②回生病院 ③ヒカリデンタルクリニック
---------	---------------------------

(様式2(1))

事業署名 グループホームメヌエット

## 目標達成計画

作成日: 令和元年 10月1日

目標達成計画は、自己評価及び第三者評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	職員一人一人へのやりがいと生活者様の認知症進行に伴い職員のレベルアップ	職員として今以上に働きやすく、資格を持つ事での有利さを感じてもらい個々のスキルアップを目指す。	処遇改善に(形にのこるもの)取り組み、定年まで働きやすく年数に応じた役職を与えられるように施設全体で考えていく。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

(様式2(2))

## サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取 り 組 ん だ 内 容 ( ↓ 該当するものすべてに○印 )
1 サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="radio"/> ⑤その他( )
2 自己評価の実施	<input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="radio"/> ⑤その他( )
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="radio"/> ④その他( )
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ⑤その他( 評価結果を職員に公開して話し合いを行った。評価結果等は西宮市に提出予定。 )
5 サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="radio"/> ⑤その他( )